

令和 5 年 5 月 11 日現在

機関番号：13201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00469

研究課題名(和文)キエフ・ルーシ時代の諸年代記の比較対照法による編集過程の研究

研究課題名(英文)Comparative studies on editions of the chronicles in Kievan Rus'

研究代表者

中澤 敦夫(Nakazawa, Atsuo)

富山大学・人文学部・名誉教授

研究者番号：90242388

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文):本研究では、キエフ・ルーシ時代(11～13世紀)の年代記『イパーチイ年代記』『ノヴゴロド第一年代記(新編集版)』の翻訳と注釈付けの作業を、研究参加者の講読会をベースに定期的に行い、その成果を大学紀要に発表した。さらに、その基礎研究で明らかになった歴史学、文献学、テキスト学的な諸問題について、研究代表者、共同研究者がテーマを決めて考察し、年一回のペースで開催した研究集会でその研究成果を発表した。それによって、年代記編集のいくつかの重要な問題について、新しい知見を得ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

キエフ・ルーシ時代の年代記のテキスト研究は、まず、年代記を主な史料とするキエフ・ルーシの歴史研究に貢献することができる。歴史研究者は、年代記記事が成立した時期、場所、動機をより正確に定めることが可能になる。併せて、本研究の年代記の文献学、テキスト学的な研究成果は、年代記以外の古ルーシ、中世ロシアの文献(文学)を研究する際に、新たな視点からの文献批判、解釈の方法を提供することができる。

研究成果の概要(英文): In this research, the work of translating and annotating the Chronicles of the Kievan Rus (11th to 13th centuries): The Hypatian Codex and The Novgorod First Chronicle (newer edition), was conducted through a reading session for the research participants. We regularly conducted these activities and published the results in the university bulletin. In addition, the principal investigator and co-investigators decided on a theme and considered various issues in historical, philological and text-critic studies that were clarified in the basic research, and held annual research meetings. We also published the results of his research. This has given us new insight into some of the important issues of Old Russian Chronicles.

研究分野：古ルーシ、中世ロシア文献学

キーワード：ロシア年代記研究 ロシア中世史 キエフ・ルーシ 年代記編集史

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

ロシア、ウクライナ、ベラルーシの歴史を研究するための基本史料である年代記(летописи)は、建国から13世紀までのキエフ・ルーシの時代についてはその数が少ない。現存するものとしては『原初年代記(過ぎし歳月の物語)』『キエフ年代記』『スーズダリ年代記』『ノヴゴロド第一年代記(古編集版と新編集版)』『ガーリチ・ヴォルィニ年代記』などがあり、主要写本にもとづく年代記名では『イパーチイ年代記』、『ラヴレンチイ年代記』、『ノヴゴロド第一年代記』のほぼ三本に限られている。

これまでのロシア、ウクライナにおける年代記研究が明らかにしたところによれば、これらの年代記は特定の時代に一挙に成立したのではなく、様々な時代に書かれた年代記的な記録(資料)が集められて編集され、さらにそのテキストが後代に編集し直されるなど、複雑な編集過程を経て現存の年代記(写本)が成立したと考えられている。そのため、以上の年代記を歴史研究の史料として使う場合にも、特定の記事が成立した時期、場所、環境などを正しく定めなければ、史実についての時代錯誤(アナクロニズム)に陥るおそれがある。

そのために年代記の編集史の研究の重要さは指摘されてきたが、A・シャフマトフを初めとする主要な年代記研究では、編集過程が複雑なこともあり、特定の年代記の編集史研究が十分に行われていたとは言い難い。

2019年度に本研究をスタートさせたときには、日本では、これらの年代記のうち、『原初年代記』『ノヴゴロド第一年代記(古輯)』の翻訳があったが、テキストの編集過程の問題について十分に研究されているとは言い難かった。

現在では研究環境の向上に伴って、電子的データを使ったテキスト分析やインターネットを利用した発表手段の拡大が可能になった。そのような新しい研究手段を活用して、年代記の文献学的な比較対照の方法を採用することによって、初期ルーシ年代記の編集史をより緻密化された方法によって推し進める可能性がでてきた。

## 2. 研究の目的

本研究は、キエフ・ルーシ時代の初期年代記『イパーチイ年代記』、『ラヴレンチイ年代記』、『ノヴゴロド第一年代記』の記事における主に共通テキストの個所に注目して、比較対照法のテキスト分析によって、年代記記事の資料・出典の特定と評価を行い、資料や引用の使われ方を検討することで、年代記編集の過程をできるかぎり明晰に再構成することを目的としている。

この目的そのものは、年代記研究の伝統的なテーマだが、年代記テキストの複雑な編集過程とその構成によって、必ずしも十分な成果を示すことができなかった。本研究では、次の「研究の方法」で述べる、新しい研究手段(電子データなど)と独自の研究方法によって、これらの年代記の編集過程について、より緻密で、説得力のある見解を出すことを目指した。

### 3. 研究の方法

年代記研究における本研究の主な独自性は、従来から行われてきた個々の年代記記事の資料や文言の典拠の研究、編集の歴史的背景の研究などに加えて、三本の年代記のテキストの共通個所を文献学的な比較対照の方法によって全面的に分析して、評価するという研究方法にある。

伝統的なロシア年代記研究の方法は、現存する写本をもとにテキストを校訂して「正本」を刊行し、その上で個別の文言の出典を、同時代の史料や聖書やビザンツ歴史書のスラブ語訳テキスト照合しながら特定していくという作業が中心だった。さらに、A・シャフマトフ以降の年代記研究は、文献学的手続きによってテキストの中に「地層」(編集単位)を見出し、各層の成立の事情を考察する方法が採られるようになり、編集史研究が前進した。

しかしながら、他の年代記との共通個所の比較分析を編集史研究に取り入れる研究方法はまだ発展途上と言わざるを得ない。研究の困難さは、年代記が何度も繰り返される逐次的な編集によって成立しているために、テキストが非常に複雑で複層的になっていることからきている。

本研究では、近年になってインターネット上で提供されている、諸年代記の信頼できる電子テキストを用い、写本による年代記テキストの異同にも考慮に入れながら(インターネット上で年代記写本の写真版が入手できるようになった)さらにロシア、ウクライナの若手研究者が取り組んできた編集史研究の成果を積極的に参照することで、編集史について緻密な研究を進めることができた。

### 4. 研究成果

本研究では、キエフ・ルーシ時代(11~13世紀)の年代記『イパーチイ年代記』『ノヴゴロド第一年代記(新編集版)』の翻訳と注釈付けの作業を、研究参加者の講読会を中心にして、週1回のペースで定期的に行った(断続的)講読会は、担当者の訳読原稿を全員で検討するかたちで行った。

その作業の成果は、研究代表者中澤敦夫が、年間2回のペースで、『富山大学人文学部紀要』に発表した。その結果、『イパーチイ年代記』(『ガーリチ・ヴォルィニ年代記』)を翻訳と注釈を完成させることができた(2021年2月)それ以前にすでに終えていた『イパーチイ年代記』(『キエフ年代記』)の翻訳と併せて、『イパーチイ年代記』の編集史研究のための基礎を固めることができた。『ガーリチ・ヴォルィニ年代記』については、中澤が編集史の分析を行い、『富山大学人文学部紀要』に論文を発表した(2021年8月)

これを踏まえて、2019年度には金沢で研究集会を開催し、2020,21年にはオンラインによる研究発表会を行って、それぞれの参加者(研究代表者、分担者)のテーマについて意見を交わした。

さらに、2021年度の後半から、研究参加者は『ノヴゴロド第一年代記(新編集版)』の訳読と注釈に取り組み、最初から、1074年の記事まで完成させることができた。その成果は、中澤が『富

山大学人文科学研究』に3回にわたって発表し(2022年2月~2023年3月)、4回目の原稿はすでに提出済みである。なお、この作業は科学研究期間が終了しても続けられる。

『ノヴゴロド第一年代記(新編集版)』の編集史研究については、コロナ禍で研究集会を開催することができず、研究期間内にとりまとめて発表することはできなかったが、上述の訳読の成果をもとに、中澤が論文を準備している。

さらに、2022年には、中澤が、年代記研究を含むロシア語で書かれた論文集 *Аццо НАКАДЗАВА. Древняя Русь и ее окрестности. Белград: Логос, 2022. 176 с. (Дальний Восток, близкая Россия. Вып. 5)* を出版した。これによって、日本における年代記研究の一端を外国の研究者に紹介することができた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 中沢敦夫	4. 巻 75
2. 論文標題 『イパーチイ年代記』翻訳と注釈(15) -- 『ガーリチ・ヴォルィニ年代記』の編集史について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 富山大学人文学部紀要	6. 最初と最後の頁 181-197
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中沢敦夫	4. 巻 53
2. 論文標題 『イーゴリ軍記』をめぐる てんやわんや から研究テーマを選ぶことについて考える（日本ロシア文学大賞〔2020年度〕受賞記念講演）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ロシア語ロシア文学研究	6. 最初と最後の頁 271-294
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中沢敦夫	4. 巻 76
2. 論文標題 『ノヴゴロド第一年代記(新編集版)』翻訳と注釈(1)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 富山大学人文学部紀要	6. 最初と最後の頁 113-219
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮野裕	4. 巻 61
2. 論文標題 中世ロシアの教会問答集「キリクの質問」1	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 岐阜聖徳学園大学紀要	6. 最初と最後の頁 87-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中沢敦夫、宮野裕、今村栄一	4. 巻 73
2. 論文標題 『イパーチイ年代記』翻訳と注釈(13) 『ガーリチ・ヴォルィ二年代記』(1265~1287年)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 富山大学人文学部紀要	6. 最初と最後の頁 229-290
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中沢敦夫、宮野裕、今村栄一	4. 巻 74
2. 論文標題 『イパーチイ年代記』翻訳と注釈(14) 『ガーリチ・ヴォルィ二年代記』(1287~1292年)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 富山大学人文学部紀要	6. 最初と最後の頁 173-217
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡本崇男	4. 巻 25
2. 論文標題 『ビホヴェツ年代記』について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 古代ロシア研究	6. 最初と最後の頁 87-94
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡本崇男	4. 巻 25
2. 論文標題 『ビホヴェツ年代記』訳注(1)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 古代ロシア研究	6. 最初と最後の頁 95-131
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮野裕	4. 巻 60
2. 論文標題 キエフ府主教ヨアン2世の『カノン回答集』 - 中世ルーシへの導入のあり方を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岐阜聖徳学園大学紀要	6. 最初と最後の頁 45-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中沢敦夫、宮野裕、今村栄一	4. 巻 71
2. 論文標題 『イパーチイ年代記』翻訳と注釈(11) - 『ガーリチ・ヴォルィニ年代記』(1230~1250年)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 富山大学人文学部紀要	6. 最初と最後の頁 177-270
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中沢敦夫、宮野裕、今村栄一	4. 巻 72
2. 論文標題 『イパーチイ年代記』翻訳と注釈(12) 『ガーリチ・ヴォルィニ年代記』(1251~1264年)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 富山大学人文学部紀要	6. 最初と最後の頁 115-200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮野裕	4. 巻 59
2. 論文標題 中世ノヴゴロドにおける聖俗諸権力の管轄権 フセヴォロドの教会規定を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 岐阜聖徳学園大学紀要	6. 最初と最後の頁 39-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中沢敦夫	4. 巻 77
2. 論文標題 『ノヴゴロド第一年代記(新編集版)』翻訳と注釈(2)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『富山大学人文科学研究』	6. 最初と最後の頁 167-271
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中沢敦夫	4. 巻 76
2. 論文標題 『ノヴゴロド第一年代記(新編集版)』翻訳と注釈(1)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『富山大学人文学部紀要』	6. 最初と最後の頁 113-219
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中沢敦夫	4. 巻 78
2. 論文標題 『ノヴゴロド第一年代記(新編集版)』翻訳と注釈(3)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『富山大学人文科学研究』	6. 最初と最後の頁 238-310
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮野裕	4. 巻 62
2. 論文標題 中世ロシアの教会問答集「キリクの質問」2	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 岐阜聖徳学園大学紀要 教育学部編	6. 最初と最後の頁 23-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 岡本崇男	4. 巻 75-1
2. 論文標題 中世東スラヴ語年代記における目的分詞について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 神戸外大論叢	6. 最初と最後の頁 25-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡本崇男	4. 巻 75-1
2. 論文標題 『ノヴゴロド第一年代記』新旧写本における不変化分詞について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 神戸外大論叢	6. 最初と最後の頁 11-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 中澤敦夫	
2. 発表標題	XII XIII .
3. 学会等名	-2019, , (国際学会)
4. 発表年 2019年	

1. 発表者名 中澤敦夫	
2. 発表標題	:
3. 学会等名	日本ロシア文学会 第 69 回全国大会ワークショップ、早稲田大学国際会議場
4. 発表年 2019年	

1. 発表者名 宮野裕
2. 発表標題 13世紀ルーシとジョチ・ウルスとの外交の形
3. 学会等名 2022年度西洋史研究会大会共通論題
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 A.A.ゴルスキー（宮野裕訳）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 刀水書房	5. 総ページ数 200
3. 書名 中世ロシアの政治と心性	

1. 著者名 (中澤敦夫)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ,	5. 総ページ数 176
3. 書名 . 5) ( ,	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	宮野 裕  (Miyano Yutaka)  (50312327)	岐阜聖徳学園大学・教育学部・教授   (33704)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	岡本 崇男  (Okamoto Takao)  (90169152)	神戸市外国語大学・外国学研究所・名誉教授    (24501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関